

## 阿保天神社力石について

令和3年4月12日  
芦屋市教育委員会  
社会教育部生涯学習課

- 1 指定区分 芦屋市指定文化財（芦屋市指定有形民俗文化財）
- 2 指定年月日 令和3年4月8日
- 3 名称(よみ) 阿保天神社力石（あぼてんじんじゃちからいし）
- 4 員数 6点
- 5 所在地 芦屋市上宮川町73-1（地番） 阿保天神社
- 6 所有者 阿保天神社（芦屋市上宮川町7-1-1〔住居表示〕）
- 7 年代 江戸時代～大正（推定）
- 8 法量等 (1) 67×37×32 (cm) 「五十匁」の銘文あり  
(2) 62×38×33 (cm) 「四十二匁」の銘文あり  
(3) 60×41×26 (cm)  
(4) 60×35×29 (cm)  
(5) 57×36×26 (cm)  
(6) 54×32×25 (cm)

### 9 概要

力石は、農村や漁村などの村落社会において、男性の通過儀礼として行われた「力くらべ」等に使用されたものである。

力石の重量は、二十～三十貫（75～112.5 kg）程度のもが多く、これは米俵一俵の重さ（十六貫〔60kg〕）が基準であると推測される。一方、300 kgを量る力石もあり、このような重量の違いは持ち上げ方や移動方法など、力石の使用方法の違いを示していると考えられる。当該資料6点の内2点には、それぞれ「五十匁」（約187.5 kg）・「四十二匁」（約157.5 kg）と、重さが刻銘されている（※「匁」は「貫」の略字。1貫=3.75kg）。

「力くらべ」等は多くの村落で行われていた行事であり、そのため、力石は全国的に点数が多い資料である。しかし、本市で現在確認できる力石は本資料のみであり、農村であったころの芦屋市域の民俗行事を知るうえで貴重な資料である。



【写真1】阿保天神社力石



【写真2】銘文(1) 五十ノ



【写真3】銘文(2) 四十二ノ